

BEST AVAILABLE COPY

MARINE HOTEL

Patentinumero: JP53040989
Julkaisupäivä: 1978-04-13
Keksijä(t): KANO MASAYOSHI; others: 04
Hakija(t):: HITACHI ZOSEN CORP
Pyydetty patentti: JPS3040989
Hakemusnumero: JP19760114916 19760924
Prioriteettinumero(t):
IPC-luokitus B63B35/72
EC-luokitus
Vastineet:

Tilivistelmä

PURPOSE:To provide movable marine hotel of good stability and accommodation by providing a well passing elevationally along the center line of a hull of concrete structure and a plurality of annular buildings at the periphery thereof.

BEST AVAILABLE COPY

⑨日本国特許庁

⑩特許出願公開

公開特許公報

昭53—40989

⑪Int. Cl.²
B 63 B 35/72

識別記号

⑫日本分類
84 A 0

序内整理番号
2123—36

⑬公開 昭和53年(1978)4月13日

発明の数 1
審査請求 未請求

(全3頁)

⑭海上ホテル

⑮特 願 昭51—114916

⑯發明者 村橋達也

⑰出 願 昭51(1976)9月24日

大阪市西区江戸堀1丁目47番地
日立造船株式会社内

⑱發明者 加納正義

大阪市西区江戸堀1丁目47番地
日立造船株式会社内

同

竹治嘉幸
大阪市西区江戸堀1丁目47番地
日立造船株式会社内

同

川上喬一
大阪市西区江戸堀1丁目47番地
日立造船株式会社内

同

日立造船株式会社
大阪市西区江戸堀1丁目47番地

同

池田隆

同

弁理士 森本義弘

明細書

1. 発明の名称

海上ホテル

2. 特許請求の範囲

① 箱船状の船体中心線に沿って上下に貫通する梁柱または複数のタエルを構成して該タエル底部に網を設け、上記タエル周囲の船体上に複数層の環状建物を構築したことを特徴とする海上ホテル。

② 箱船状の船体をコンクリート構造とし、その上に鉄骨または鉄板製の建物を構築してかる特許請求の範囲第1項記載の海上ホテル。

3. 発明の詳細な説明

本発明は海上ホテルに関する。

一般に観光地のホテルは1シーズンしか満員にならず、シーズンオフには利用客が著しく減って半間利用率が低い現状である。そこでシーズンごとにホテルを需要地に移動させることができれば非常に都合がよい。この目的に沿う海上ホテルとしては、とくに船体の保留時にかける安定性を向

上させることが望むであり、そして利用客に対する海面又は海中観賞が施設全体に亘って行なえること、併せて安全なプールと魚類の生養の設備も必要となる。

本発明はかかる要望に応えて考されたものである。

以下、本発明の一実施例を図に基づいて説明する。すなわち箱船状の船体③の中心線に沿って上下に貫通する2つのタエル②を構成し、該両タエル②の底部に網⑤を設け、上記タエル②周囲の船体③上に複数層の環状建物④を構築してなる。なお上記船体③をコンクリート構造とし、また環状建物④を鉄骨または鉄板製としてある。図中、⑥はタエル②内に配設された水中トンネルであり、該トンネル⑥の壁面の適当箇所には観察窓(図示せず)を設けてあって、このトンネル⑥を水中散歩道として利用する。

上記構成において、タエル②を設けることによって資材の節約をはかることができると共に船体③の建造を容易にし、かつ船体③の安定性を向上

BEST AVAILABLE COPY

特開昭53-40989 (2)

させるものである。つまり、船体(1)の移動又は動搖に際しては船体がクエル(2)内の水を浮断または移動させることになるので、クエル中の水はその抵抗体として作用することになる。したがってこれを備えない場合より船体の安定性を向上できる。またこのクエル(2)は、ホテル内部の観賞用として、あるいは駆除気向上のため役立てることができる。さらにクエル(2)の底部に網(3)を張ることによって、このクエル(2)内を安全な水泳プールあるいは漁魚場として利用することができるものである。また船体(1)をコンクリート構造とすることによって腐食問題を解消して寿命を長くし、さらに環状建物(4)を鉄骨または鉄板製とすることによってこの建物(4)を軽量かつ強固なものにしてある。またこれにより海上ホテルの重心が下の方になるよう配慮してある。

以上述べた本発明の海上ホテルによれば、ホテル需要地に自航あるいは曳航によって移動させることができ、ホテルの利用効率を向上させることができる。また船体にクエルを設け、かつ建物を

(3)

環状とすることによって建物の内側も有効な居住性を与えることができ、このクエルの底部に網を設けてあることから、このクエルを利用してブルあるいは漁魚場などに利用し利用客へのサービスも十分つくすことができる。さらに船体をコンクリート構造とすることによって寿命が半永久的にあり、これと共に建物を鉄骨あるいは鉄板製として軽量化することから、重心が低くなり、丈夫であり、安定性がある。また台風などが近づいた場合には、海上ホテルの利点を生じて安全な場所に逃げることができるものである。

4. 図面の簡単な説明

図は本発明の一実施例を示し、第1図は側面図、第2図は概略底断面図、第3図は概略平面図である。

(1)…船体、(2)…クエル、(3)…網、(4)…環状ホテル、(6)…トンネル

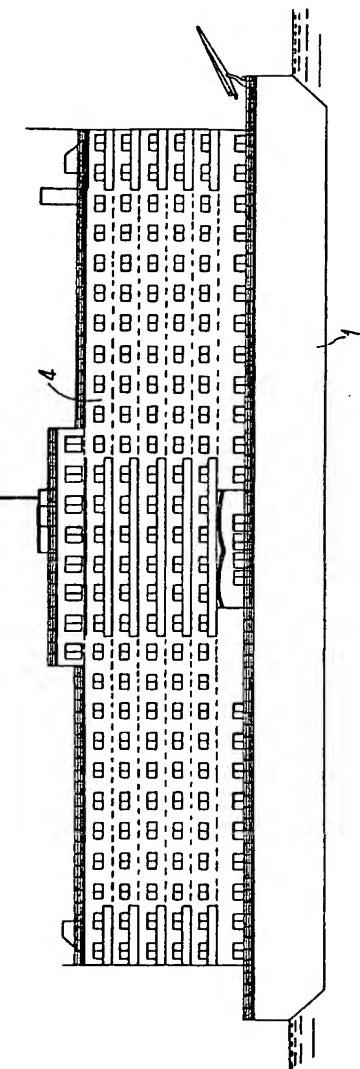
代理人 森 本 義 弘

(4)

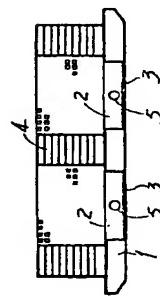
BEST AVAILABLE COPY

1953-40989 (3)

第1図



第2図



第3図

